

SEBASTIAN

WEIGLE 2019

威厳に満ちた旋律と躍動するリズム!

BEETHOVEN "EROICA"

名匠ヴァイグレが振るベートーヴェン「英雄」



©Neda Navaee

フランクフルト歌劇場の音楽総監督を務め
世界の聴衆を魅了するドイツの名匠

チェロ **ユリア・ハーゲン**

Cello= JULIA HAGEN

フランクフルト歌劇場の音楽総監督を務め
世界の聴衆を魅了するドイツの名匠

読響第10代常任指揮者

セバスティアン・ヴァイグレ

Tenth Principal Conductor
SEBASTIAN WEIGLE



ワーグナー: 楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」
第1幕への前奏曲

シューマン: チェロ協奏曲 イ短調 作品129

ベートーヴェン: 交響曲第3番 変ホ長調 作品55 「英雄」

WAGNER: "Die Meistersinger von Nürnberg" Prelude to Act I

SCHUMANN: Cello Concerto in A minor, op. 129

BEETHOVEN: Symphony No. 3 in E flat major, op. 55 "Eroica"

読響日本交響楽団 第622回 名曲シリーズ

2019 5/24(金) 19:00 サントリーホール

S¥7,500 A¥6,500 B¥5,500 C¥4,000

Popular Series, No. 622

Fri. 24th May 2019 19:00 / Suntory Hall

読響日本交響楽団 第111回 みなとみらいホリデー名曲シリーズ

2019 5/26(日) 14:00 横浜みなとみらいホール

S¥7,500 A¥6,500 B¥5,500 C¥4,000

Yokohama Minato Mirai Holiday Popular Series, No. 111

Sun. 26th May 2019, 14:00 / Yokohama Minato Mirai Hall

読響チケットセンター 0570-00-4390(10時-18時・年中無休)

主催: 読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団
協力: 横浜みなとみらいホール(5/26)

読響 Yomiuri Nippon Symphony Orchestra

ベートーヴェンからシューマン、ワーグナーへ 名匠ヴァイグレがドイツ音楽の神髄に迫る!

1828年の秋から翌春にかけて、中部ドイツ・ライプツィヒの演奏会場、ゲヴァントハウスに通いつめた若者が二人いる。いずれも、そこに鳴り響いた音楽にいたく感激し、この傑作群を生んだ作曲家をみずからの道標として歩むことを決意した。

ふたりの若者の名はロベルトとリヒャルト。長じて作曲家として活躍することとなる、シューマンとワーグナーだ。彼らはゲヴァントハウスで、ベートーヴェンの交響曲シリーズを聴いた。シューマンはその後、大学の講義をほったらかしにして交響曲の創作に打ち込み、ワーグナーはあの日聴いた第九交響曲のピアノ編曲に取り掛かった。やがてシューマンは、ベートーヴェンの幹から直接、曲がりくねった松のように伸びていき、ワーグナーはベートーヴェンの幹を食い破って、それを肥やしに新種の花を咲かせる。

作曲家としてのロベルトとリヒャルトは、ベートーヴェンが産み落とした“似ていない双子”なのだ。だから、新常任指揮者の用意した演目は、親子プログラムと言って差し支えない。子供たちの枝振りの佳さを愛で、親の幹の太さに改めて驚く。そんなコンサートになるだろう。

ドイツ語色に染まる“台本”だが、なるほど役者は揃っている。ソリストとしてシューマンのチェロ協奏曲を弾くのはユリア・ハーゲン。ザルツブルク生まれの新星だ。弓の運びがめっぽう達者。だから、どんな楽想でも音楽の推進力が衰えない。シューマンのリズム遊びをあぶり出すのに、もってこいの“女優”である。

ベルリンっ子のセバスティアン・ヴァイグレを新しい“演出家”に迎えた読響が、この“台本”を演ずるにふさわしいことは言うまでもない。周囲がヴァイグレに期待するのは、独塊系音楽を充実させること。本人もその役目を強く任じている。読響はすでに、みずからの下地にある“ドイツ語”音楽に、カンブルランの残したシャープな音響設計の妙を加えている。そこに現れた独塊本格派。指揮者と楽団の間には思った以上に、刺激的な化学反応の起こる可能性がある。それを聴き逃す手はない。

澤谷夏樹 (音楽評論家)



セバスティアン・ヴァイグレ 指揮
SEBASTIAN WEIGLE, Conductor

2019年4月から読響第10代常任指揮者を務めるドイツの名匠。ベルリン生まれ。1982年からベルリン国立歌劇場管の首席ホルン奏者として活躍後、指揮者に転身。2003年にフランクフルト歌劇場でR.シュトラウス〈影のない女〉を振り、雑誌『オーパンヴェルト』の「年間最優秀指揮者」に選ばれた。04年から09年までパルセロナのリセウ大劇場の音楽総監督を務め、08年からフランクフルト歌劇場音楽総監督の任にある。同歌劇場は『オーパンヴェルト』の「年間最優秀オーケストラ」や「年間最優秀歌劇場」に輝くなど、その手腕は高く評価されている。パイロイト音楽祭、ザルツブルク音楽祭、ウィーン国立歌劇場、ベルリン国立歌劇場、ドレスデン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、ベルリン放送響、ウィーン響などで活躍している。

ユリア・ハーゲン チェロ Julia Hagen, Cello

チェロの名手ハーゲンを父に持つ、ザルツブルクが生んだ新星チェリスト。1995年生まれ。5歳からチェロを始め、ザルツブルク・モーツァルテウム音楽院とベルリン芸術大学で学び、ブロンツイ、シフ、マインツらに師事。リーツェン国際コンクールやトリノ・マツァクラータ国際コンクールで優勝するなど数々の賞を受賞。クロンベルク・アカデミーに招待されたほか、ウィーン・フィルの室内楽プロジェクトに参加。ソリストとして、ポルトン指揮モーツァルテウム管やマクリーシュ指揮ウィーン室内管などと共演。室内楽ではヴラダーやシルマー、ルーカス・ハーゲンらと共演し、ボン・ベートーヴェン音楽祭、エクサン・プロヴァンス音楽祭に出演。今回、読響に初登場。



©Neda Navace

読売日本交響楽団 第622回 名曲シリーズ

2019年 **5月24日**(金) 19時開演

サントリーホール 東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

S ¥7,500 / A ¥6,500 / B ¥5,500 / C ¥4,000

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

読売日本交響楽団 第111回 みなとみらいホリデー名曲シリーズ

2019年 **5月26日**(日) 14時開演

横浜みなとみらいホール 神奈川県横浜市西区みなとみらい2-3-6 Tel. 045-682-2020

S ¥7,500 / A ¥6,500 / B ¥5,500 / C ¥4,000

●東急東横線直通・みなとみらい線「みなとみらい」駅 クイーンズスクエア横浜連絡口 徒歩3分
●JR京浜東北線・根岸線、横浜市営地下鉄「桜木町」駅 動く歩道からランドマークプラザを経由でクイーンズスクエア1階奥 徒歩12分

読響サービス 横浜みなとみらいホールでは「読響サービス」を提供しています。(株)明日香045-316-5539 学生券 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。 ■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。あらかじめご了承ください。 ■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時-18時・年中無休

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

*座席選択可/チケット郵送料無料

プレイガイド

チケットぴあ 0570-02-9999

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017(24日)

横浜みなとみらいホールチケットセンター 045-682-2000(26日)